

平成29年度 学力向上指導改善プラン

三輪小学校長 植田 敦之

学校教育目標		人も自分も・学校もふるさと大切にできる子の育成					
推進主体		管理職と学校教育改革推進委員会、研究推進委員会を基に学力向上委員会を組織					
学力に関する前年度の課題・経年の課題							
学力的状況	全国学力・学習状況調査結果の状況 (国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>「漢字を読む・書く」ことに関しておおむね満足できる状態にあるが、「ローマ字を書く・読む」ことに課題がある。</li> <li>「話す」ことに関しておおむね満足できる状態ではあるが、話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿った質問をするなど、「聞く」ことに課題がある。</li> <li>「聞く」文意に沿って、グラフから必要な情報を抽出することに課題がある。</li> <li>解答の選択肢を選ぶ際に、条件に合わないものを消去することが苦手である。</li> </ul>				
		算数数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>「三角形の底辺と高さの関係についての理解」に課題がある。</li> <li>「全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合の意味の理解」に課題がある。</li> <li>「1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係についての理解」に課題がある。</li> </ul>				
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「数字や記号、言葉で答えるような基本的な問い」には答えることができるが、記述式の解答が苦手だと感じている児童がいる。</li> </ul>					
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「下学年では落ち着いて話を聞く姿勢に課題のある児童もいる。」</li> <li>「意図的に取り組み、友だちや先生の話をよく聞くことができるが、自分の考えを伝えることが苦手な児童がいる。」</li> <li>「ペアワークやグループワークでは発表できるが、全体の場では発表が苦手だと感じている児童がいる。」</li> </ul>					
	学力向上に係る学習習慣等の学習状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学習意欲・生活習慣については、おおむね良好である。」</li> <li>「友達同士で話し合っ学校での学習のきまりを決める」、「協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」の質問に対して肯定的な回答比率が高い。</li> <li>「将来の夢や目標を持つこと、家で学校の授業の予習や復習をすること」に課題がある。</li> </ul>					
学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「家庭での読書」が十分定着していない。</li> <li>「本読み、漢字、計算など基礎的な学習の定着にやや課題が見られる。」</li> <li>「決めたことを最後までやり遂げる」の項目で、児童と保護者の意識に差が見られる。</li> <li>「家庭学習の手引き」の活用が不十分である。</li> </ul>					
	家庭・地域等の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「伝え合い」「聞き合い」の視える化を充実することで、学び合いを確かなものにする(視える化の充実)</li> </ul>					
研修校内の研究状況	校内研究の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「伝え合い」「聞き合い」の視える化を充実することで、学び合いを確かなものにする(視える化の充実)</li> </ul>					
	校内研修の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「夏季休業中を活用し、講師を招聘するなどして、毎年必要な研修を計画的に行っている。」</li> </ul>					
家庭・携校種間連携	家庭・地域等の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「計画的に家庭学習を進めることについて家庭の協力を得ることが難しい児童がいる。」</li> </ul>					
	小・中における教科連携等の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「八景中校区(幼・小・中)で目指す子ども像を定め、共通した目標を設定し、指導の充実を図っていく。また、保護者の協力のもとで「家庭学習の手引き」を活用していく。」</li> </ul>					
		4月	10～11月	2～3月			
学力向上に向けての重点的な目標		成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	中間評価 (今年度の全国学力・学習状況調査、研究の成果などを踏まえての設定目標等の見直し)	年度末評価 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○読書意欲を高め、基礎基本の定着を図る。個に応じた学習支援の充実を図る。</li> <li>○国語科において一人学習を充実させ、多様な意見が交流できる授業改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習として「読書タイム」を行い、読書に親しみ、日常的に読書活動ができる体制を整える。</li> <li>・朝の会や終わりの会などでスピーチを計画的に行い、学年による系統立てた指導を行う。</li> <li>・单元ごとの「つけたい力」を明確にし、学習課題を解決するための一人学習を行い自分の考えを持たせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「読書タイム」の取り組みを引き続き継続する中で、読書の習慣をさらに身につけさせる。</li> <li>○单元ごとの「つけたい力」を明確にし、事例などを示すなどしながら、一人学習の充実を図りながら自分の考えを持たせるようにする。</li> <li>◆各教科で横断的に手紙を書く機会を意図的、計画的に設定し、目的や意図を明確にして、書きたいこと、中心が伝わるように詳しく書いてもらい簡単で書いたりすることができるよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校司書との連携により、図書と関連づけた授業や教科の学習で使う本の準備等学校図書館の活用が広がった。</li> <li>○「読書タイム」や「読書コンクール」、「ヒアリング」や読書ボランティアによる読み聞かせ等の取り組みを行ったことで、読書が好きな児童が育っている。</li> <li>○国語科を中心に、発表の技やつけたい言葉の力、聞き方を教室掲示することで、「つけたい力」により明確になり、児童の意識を高めることができた。</li> <li>◆資料を読み解く機会を多く持ち、資料を比較、自分の考えを構築する体験を授業の中に取り入れた。</li> <li>○ローマ字を書く機会を多く持たせていく。</li> </ul>	A	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○新学習システム教員と担任が連携しながら、基礎基本の定着ときめ細かな指導の充実を図る。</li> <li>○算数科において課題解決の達成感が感じられるような授業改善を図る。</li> <li>○根拠をもとに考えたり、発表したりして自分の考えを説明することができるようにする。</li> <li>○兵庫がんばりタイムを設定し、基礎基本の一層の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習として「計算博士」を行い、一人一人のめあてを明確にし、スモールステップで評価することで、達成感を持たせる。</li> <li>・基本的なノート作りの見本を提示する。</li> <li>・振り返りを行い、授業の学びを確認することを重視する。</li> <li>・教材研究の時間を確保し、単元計画を作成する。(学びのスタンダードの設定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝学習として「計算博士」の取り組みを継続する中で、基礎基本の力をさらに定着させる。</li> <li>○兵庫がんばりタイムを効果的に活用し、担任や外部ボランティアと連携して基礎基本の定着を図る。</li> <li>◆乘法、除法、加法、減法の順序など「計算のきまり」について、具体的な事例を通して理解できるようにしていく。</li> <li>○学びが連続していくように学習のスタンダードを作っていく。</li> <li>◆日常生活の問題解決のために、算数の知識を効果的に使い、児童自らが、どのように考えてそうしたかを説明できるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「計算博士」の取り組みにより、基礎基本の力をつけることができた。</li> <li>◆学習のめあてと振り返りを書くことで、1時間の授業の学びを児童に意識させることができた。</li> <li>◆授業の中で、課題解決への見通しを説明したり、間違いを説明したりする学習に取り組んでいるが、これらも思考力や表現力を高める継続した取り組みが必要である。</li> <li>○全校で実施している「学習相談」や、今年度から4～6年生で実施した「がんばりタイム」の活用が、児童の苦手意識の克服につながっている。</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内研究において「ともに学び合い高め合う子」に～伝え合う場の設定～というテーマに沿って、「教材解釈の充実～子どもの読みを生かしながら～」「言語活動の充実～一人学習を生かしながら～」「言語活動の充実～指示・板書・ノート～」を研究の柱として、子どもたちの「学び合い」を高める授業研究を進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員が年1回の研究授業を実施する。</li> <li>・教材研究の時間を確保する。</li> <li>・県や市が主催する講座などへ積極的に参加する。</li> <li>・校内研修会、ミニ講座などを実施し授業向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎年実施している「研究発表会」の前に、各学期に1回講師を招聘した研究授業を実施する。</li> <li>○研究授業での成果や課題、学びを、日々の授業に活かしていく。</li> <li>○低・中・高学年が研究母体となり、教材解釈や授業の作り・展開など、児童一人一人が分かる楽しさを味わえるように絶えず日々の授業を工夫し、個別指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業研究や実践記録執筆を通して、「つけたい」言葉の力を明確にし、それを身につけさせるために言語活動の充実を図ることができた。</li> <li>◆基礎基本を徹底し、ユニバーサルデザインを進めていく。</li> <li>○「学びのスタンダード」を作り、児童の学びが途切れることなく連続していくようにする。</li> </ul>	A	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○将来の夢や目標を持つことができるように、キャリア教育の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○質問紙調査結果の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリア教育の年間指導計画を作成する。</li> <li>・6年生を中心に「ふるさと三輪」の学習を充実させる。</li> <li>・6年生を中心に国語科や総合学習、道徳においてプロフェッショナルたちの生き方にふれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリア教育を通してクラスメイト同士の相互理解と自尊感情を育てていく中で、自分大切にすること、学校や地域の人々と地域をよりよくつなげていく。</li> <li>◆感げられたことを褒めることで「自信」を持たせ、自尊感情を育てていく。</li> <li>○地域の人々や地域の歴史などを学ぶことで、ふるさと(校区)を大切にしようとする気持ち育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆キャリア教育の年間指導計画をもとに児童が自分らしい生き方を実現する力を育てていく。</li> <li>○6年生の「ふるさと三輪」の学習を始めとして、各学年で地域に学ぶ学習を行っている。</li> <li>◆6年生を中心に国語科や総合学習、道徳においてプロフェッショナルたちの生き方にふれる学習を充実させていく。</li> <li>◆校区内の学習教材や人材と結びつける地域学習を充実させ、カリキュラムマネジメントを推進させる。</li> </ul>	B
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○読書活動を充実させ読むことへの関心を高める</li> <li>○貸出冊数の増加</li> <li>○学校評価アンケートの肯定評価増加</li> <li>○学習相談日目の活用</li> <li>○「家庭学習の手引き」を周知させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書カードを活用し個人・学級の読書履歴を残していく。</li> <li>・学年・学級文庫に追加学習に応じた調べ学習コーナーを設ける。</li> <li>・毎月23日の読書者の日は、子どもや教員に読書習慣を促す。</li> <li>・学校図書や学校ボランティアによる読書活動の取り組みを推進していく。</li> <li>・「家庭学習の手引き」をもとに、低学年から家庭学習の時間目標を明示し、習慣づけを行う。</li> <li>○自分で決めてチャレンジする意欲の育成(継続し読書)</li> <li>○ふるさと三輪を愛する学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読書通帳を活用することにより、読書習慣の確立を図る。</li> <li>○低学年のうちから家庭学習の時間目標を明示し、習慣化を図っていく。</li> <li>◆家庭学習の手引きが活用できるよう、保護者に呼びかけると共に学年はじめ及び毎学期のはじめに振り返り指導する。</li> <li>○八景中校区連携の取り組みの1つとして、読書50冊、おすそ分け10冊進ませ、なわとびの技の上達をあげており、全学年で取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「家庭学習の手引き」を年2回配布し、家庭学習の仕方や時間を示すことで、児童・保護者に家庭学習をするように積極的な啓発を行った。さらに、「家庭学習の手引き」を教室にも大きく掲示するなどし、保護者の協力を得ながら児童が自ら読書や読書を毎日一定時間取り組めるようにしていく。</li> <li>○学校では、学年に応じて学びの姿勢が定着してきており、基礎基本が固まっている。</li> <li>○図書ボランティアによる読み聞かせ、読書通帳の活用により、読書に対する児童の意識が向上していった。</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級を開き、児童観察のポイントや授業技術を学び合う。</li> <li>○情報収集、的確な課題分析を行い、目の前の子どもに寄り添った指導ができるよう指導力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一授業を公開</li> <li>○研究発表会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業づくりの観点を整理し、外部講師を招聘して、研究成果を明らかにする。</li> <li>・学校組織としての取り組みを自覚し、全教職員一丸となって指導に当たる態勢を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ユニバーサルデザイン」を環境作りに取り入れ、すべての子どもに学びの保障をする。</li> <li>○豊かな言葉が生まれる場の設定充実させ、基礎基本一丸となって指導する態度を作る。</li> <li>○主体的・対話的で深い学び」の在り様を探り、日々の授業の見直しを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ユニバーサルデザイン」の認識を職員に共有できたので、実際にできることを共有して実施していきたい。</li> <li>◆児童の実態から「つけたい力」と「これかつけたい力」を明らかにし、詳細の観点を明らかにし、「めあてとふりかえり」のある授業「ノートのとり方」等学習スタンダードを共有していく。</li> </ul>	B
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○どのクラスでも、宿題内容の簡素化を図り、漢字や計算練習、書道など決められたことを必ずできるようにする。</li> <li>○家庭学習の充実を目指し、「家庭学習の手引き」の更なる活用を目指す。</li> <li>○宿題忘れ減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○宿題忘れ減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学習実態に応じて担任による放課後指導や外部学習支援ボランティアの活用を継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の学習実態に応じて放課後指導をしたり、宿題を出したりすることで、家庭学習の定着を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○がんばりタイムの取り組み等きめ細かな個別指導により、児童一人一人に自信をつけさせることができた。</li> <li>◆英語科の導入に合わせ、学習相談及びがんばりタイムの持ち方を工夫する。</li> </ul>	A
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校卒業時の目指す子ども像を明らかにし、八景中校区で学習や学校生活におけるきまりや規則、努力目標を統一し、指導の一貫性を図る。</li> <li>○学校生活における基本的なルールの作成と共通化(生徒指導部)</li> <li>○家庭学習の手引きの活用</li> <li>○目標に向かってチャレンジする意欲の育成(継続し読書)</li> <li>○ふるさと三輪を愛する学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小中教員の定期的な交流を行い、共通理解のもと学習指導や生活指導に取り組む。</li> <li>・「出前授業(理科・英語)」や社会体育での交流を通して、学習に対する児童の興味関心を高める。</li> <li>・家庭学習の手引きについて保護者にも説明し、協力を求めながら活用を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○八景中校区間で定期的な交流を図り、生活の決まりや「学びのスタンダード」作りなど指導の一貫性を図り、課題の共有や改善方法について共通認識ができた。</li> <li>○互いの授業参観の機会を設定し、教師間の交流を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○八景中校区連携により「家庭学習の手引き」の改訂し「学びのスタンダード」を作成したため、今後は具体的に実施していきたい。</li> <li>○より確かな連携に向けて、各分野ごとの連絡会、交流事業計画等、計画的に実施していく。</li> </ul>	B	